

〈図書紹介〉

中沢 新一著

『アースダイバー』

(講談社, 2005年6月, 252頁, 1,890円)

寺田寅彦は、1922(大正11)年の随筆「茶わんの湯」で、静かな湯気と湯の振る舞いから熱雷・海陸風・季節風のダイナミックな原理を洞察して、科学研究を楽しむ精神を著した。

この「平凡の中の非凡」に着眼し、寺田が示した素朴な発見の喜びや感動の体験を社会科の学習に具体化する手立ての1つが、見慣れたはずの都市の相貌が一変するよう感じられる教材の開発である。その糸口となる本書では、著者が縄文海進期の原図に縄文・弥生遺跡、古い神社、古墳、寺院の分布を重ね合わせて描いたア

ースダイバー用地図を手に東京の街を歩く。すると縄文時代から古墳時代にかけて埋葬地や聖地に選ばれた往時の岬・半島の突端部に、後世の江戸や東京のランドマークとなる重要な施設が繰り返し競うように立地してきた構造がしだいに明らかになる。

東京の景観の中に、岬・半島に霊的な力を察知した縄文人の思考が無意識に再現されてきたことに現代人は気づいていないのである。

齋藤之誉

〈図書紹介〉

齋藤 毅

『続世界・切手国めぐり』

(日本郵趣出版, 2004年9月, 269頁, 1,890円)

生徒は国名・地名を知らない。現在の地球表面がよく分からない者に、過去への動機付けをどうするか?ましてや滅亡した国、消滅した植民地の場合は?

未知の国家・地域について手っ取り早くイメージさせる教材として有効なのが、郵便切手である。特に本書には「百年前の世界切手国めぐり」と題する章があり、切手がいかに時代と空間にわたって臨場感を与える貴重な資料となりうるかが具体的に示されている。元々著者には

『世界・切手国めぐり』(日本郵趣出版, 1997)もあり、これで2004年7月段階における世界の切手発行国・地域も網羅された。掲載された図版が全て白黒・縮小版であるのは残念だが、これは他のカタログ(例『東京国立博物館所蔵万国郵便切手』2005年発行など)と併せての利用で補えよう。

山田美保